

文芸コースは 週末芸大から 手のひら芸大へ

2024年度文芸コース「手のひら芸大」移行に伴う
各種変更事項について

2024年度より、文芸コースは週末にスクーリングを受講する「週末芸大」から、通学不要のオンラインで全てが学べる「手のひら芸大」に完全移行します。

目次

1. 完全移行に伴う現科目の閉講について
2. 2024年度からの新カリキュラムについて
3. 新カリキュラムの学習の流れ
4. アートライティングコースとの科目連携について
5. 卒業関連科目について
6. 卒業要件、卒業制作着手要件について

1. 完全移行に伴う現科目の閉講について

現在開講している文芸コースの科目は2023年度末で全て閉講し、
完全オンライン型の科目に変わります。

閉講科目

- 文芸入門
- 文章表現基礎
- 文芸I-1
- 文芸I-2
- 文芸I-4
- 文芸II-3
- 文芸II-4
- 文芸論II-3
- 文芸論II-4
- 文芸論II-5
- 文芸演習I-1
- 文芸演習I-2
- 文芸演習II-1
- 文芸演習II-2
- 文芸演習II-3
- 神話学入門
- 世界の古典を読む
- 日本の古典を読む
- 京都の文芸
- 短歌と俳句
- インタビューと取材の方法論
- 文化批評概論

2. 2024年度からの新カリキュラムについて

2024年度からは以下の科目が文芸コースの専門科目となります。

※2022年度時点の予定です。今後変更になる場合があります。

新規開講科目

- 文芸特講 1 文章表現の構造と技法
- 文芸特講 2 文脈を読む
- 文芸特講 3 小説の構造と技法
- 文芸特講 4 古典を読む
- 文芸特講 5 小説を読む
- 文芸特講 6 シナリオ・ネームを書く
- 文芸演習 1 対象を観察して書く
- 文芸演習 2 自分の主張を交えて書く
- 文芸演習 3 文芸批評を書く
- 文芸演習 4 エッセイを書く
- 文芸演習 5 小説を書く

3. 新カリキュラム 学習の流れ

新カリキュラムでは「特講科目」と「演習科目」があり、それぞれ以下の流れで学習します。
※2022年度時点の予定です。今後変更になる場合があります。

「文芸特講」

履修期間内にオンデマンド動画を視聴、テキスト学習をし、レポートを提出、教員からの全体講評を参考に最終レポートを完成させます。

動画講義
+
テキスト学習

レポート課題
初回提出

全体講評

レポート課題
最終提出

「文芸演習」

履修期間内に自己紹介とレポート発表をし、その後学生同士で相互論評を行います。学生からの論評と教員からの全体講評を参考に最終レポートを完成させます。

自己紹介
+
レポート発表

相互論評

全体講評

レポート課題
最終提出

4. アートライティングコースとの科目連携について

「手のひら芸大」の1つであるアートライティングコースと連携し、アートライティングコースの一部科目を文芸コースの学生が履修できるようになります。 ※2022年度時点の予定です。今後変更になる場合があります。

科目例

「アートライティング演習6（ノンフィクションライティング）」

観察によって言葉を鍛えながら、「社会的な事実をいかにして文章として表現するか」を学びます。自分の視点を言語化するプロセスや、社会を取材する方法論の基礎などを実践的に修得する講義です。

5. 卒業関連科目について

これまで2年間かけて取り組んでいた卒業関連科目（論文研究、卒業研究）は、
およそ1年弱に期間を短縮して行います。

※2022年度時点の予定です。今後変更になる場合があります。

	3年次				4年次			
	春期	夏期	秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期
現行カリキュラム								
新カリキュラム								

6. 卒業要件、卒業制作着手要件について

2024年度より、卒業するために必要な単位数が定められている「卒業要件」、また「卒業制作」に着手するために必要な単位数が定められている「卒業制作着手要件」も変更になります。

ただし、2023年度までの各種要件で単位修得した単位は2024年度も引き継がれ、無駄になることはありません。

以上が2024年度からの変更事項になります。
「手のひら芸大」になることで、
より自由で開かれた学びの場となる
文芸コースにぜひご期待ください。